

平成27年3月10日号（第147回）

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

ようやく寒さも緩んできました。春はもうすぐ目の前です。
春は卒業や入学の季節ですが、最近『花粉』の季節とを感じる方も多いのではないのでしょうか。



今回の阿伎留通信は、－「身近な眼科疾患」－

をテーマに眼科 中安 弘毅医師よりお話しさせていただきます。

今回は、眼科疾患の中でも皆さんが一度は聞いたことがある疾患について、説明していきたいと思います。

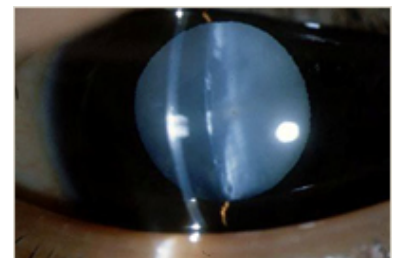
■白内障

白内障は目の中のレンズ（水晶体）が濁る『病気』です。『病気』といっても顔のシワや白髪が増えるのと同じで加齢に伴うものが大半なので、そのような意味では必ずしも『病気』とは言えないかもしれません。しかし、『病気』として発症することもあり、若い人でも先天性や外傷性、アトピー、眼内の炎症などに伴うこともあります。

初期には「明るい所でまぶしい」、「霧がかかった様に見える」などと感じますが、進行するにつれて視力が低下します。「白内障になったら手術しなければいけない」と考えがちな患者さんも多いと思いますが、必ずしもそうではありません。患者さん本人が、その人自身の日常生活に不自由を感じるようになれば、その時初めて手術を検討します。

当科での白内障手術は、日帰り手術も入院（2泊3日）での手術も対応しています。ほとんどの場合、点眼麻酔で行い、手術時間は目の状態にもよりますが概ね15分前後です。濁った水晶体を超音波で砕いて取り出し、人工のレンズ（眼内レンズ）を入れるという方法が一般的です。手術が順調に終われば、翌日から眼帯を外して物を見ることが出来ます。今まで霞がかかって見えていたものが、「よく見える」、「明るくなった」、「色鮮やかになった」、中には「自分の顔のしわの多さに驚いた」という患者さんの声を聞きます。

しかし、手術をすれば全てがよく見えるようになるというわけではありません。眼内レンズには、ピントを合わせる調節機能がないので、必要に応じて術後視力が安定してくる術後約1ヶ月を目処に眼鏡を作ります。しばらくの間は、点眼薬を数種類使用しながら定期健診を受けて下さい。



■緑内障

緑内障は、視神経が障害（視神経乳頭陥凹）され、視野に異常を来す病気です。慢性のタイプと急性のタイプがあります。多くは慢性のタイプですが、これは進行がとても遅いために自覚症状はほとんどありません。自覚症状がない緑内障に対して最も重要なことは、早期発見・早期治療です。一度障害された視神経を元に戻す方法はなく、進行を食い止めることが目標になります。眼圧が長期間に渡って上昇していることで視野障害は進行するので、点眼薬や場合によっては手術を行い、眼圧を低くコントロールします。毎日の点眼と定期的な受診を継続していきます。



緑内障による視神経乳頭陥凹

一方、急性の緑内障では、眼内の房水が何らかの原因で過剰になることで急激に眼圧が上昇します。すると眼痛や頭痛、吐き気を自覚し、また、角膜がむくんで視力低下を自覚します。この時、瞳が青っぽく（緑っぽく）見えるということから緑内障の名前がついたようです。

緑内障の治療は、慢性タイプについては急いで治療を開始しなくては失明してしまう、ということはありませんが、急性タイプは時間が経つほど治りにくくなるので、先に書いたような症状を自覚した時には、早急に眼科を受診していただき、眼圧を下げる必要があります。

■アレルギー性結膜炎

体質的な問題ですが、何らかのアレルギー物質が原因でかゆみや充血、目やに、まぶたの腫れなどを起こす病気です。今の時期でいえば花粉症もこれに含まれます。全国で約 2,000 万人のアレルギー性結膜炎の患者さんがおり、そのうちの約 85% が花粉症と推定されています。

アレルギー性結膜炎の治療には、抗アレルギー薬という点眼薬が用いられています。これはアレルギー反応の中で、かゆみやくしゃみなどを引き起こす指令を伝える物質が、細胞から血液に出てこないように抑える薬です。症状が強い場合は、副腎皮質ステロイド薬も用いられることがあります。ホルモンの薬である副腎皮質ステロイド薬は、適切に使用すればとてもすぐれた薬ですが、緑内障などの副作用が現れることがあるので、使用にあたっては注意が必要です。それでも、強いかゆみなどで日常生活や仕事に差し支えがある場合は、抗アレルギー薬を飲み薬として服用することもあります。



アレルギー性結膜炎は予防も大切ですが、特に花粉症の場合は症状の出現しやすい季節にできるだけ花粉と接しないように工夫することが重要です。ゴーグル型の眼鏡や花粉防止用のマスクの着用が最も効果的です。花粉が飛びやすい日は、外出や洗濯物などを外に干すことを避けたり、外出から帰宅したときには服についた花粉を十分に落とすことが大切です。

体質だから仕方ないとあきらめたり、逆に簡単に考えたりせずに、日常を快適にそして豊かに過ごすためにもアレルギーとうまく付き合っていくことが大切です。

阿伎留通信については、第1回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)